

みぞろ 溝路遺跡発掘調査現地説明会資料

2024年 9月 21日
公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

所 在 地 ： 京都市南区久世殿城町地内
調査期間 ： 2024年6月3日～2025年3月31日(予定)
調査面積 ： 2,066㎡

1. はじめに

本調査は、都市計画道路向日町上鳥羽線及び牛ヶ瀬馬場線道路整備工事に伴う発掘調査です。調査地は長岡京北郊に位置する溝路遺跡にあたり、これまでの調査では弥生時代から古墳時代の落込み遺構と、長岡京期の柱穴・土坑を確認しています。今回の発掘調査では、長岡京の北限と考えられている北京極大路よりも北側で、京内から連続する長岡京期の道路と、それに隣接する建物が発見されました。

2. 長岡京とは

長岡京は、延暦3年(784)11月に桓武天皇の命によって奈良の平城京から遷された都であり、延暦13年(794)10月に平安京に遷都するまで、日本の首都として機能していました。都の範囲は、桂川と西山丘陵に挟まれた東西約4.3km、南北約5.2kmにおよぶと考えられています。政治の中心である大極殿や朝堂院などがある長岡宮は、現在の向日市域(調査地の南西)に造営されました(図2)。その周囲には、南北・東西の道路(大路)を基盤の目状に組み合わせて方格の街区が形成されており、さらにその街区内を幅約9mの道路(小路)で東西4つ・南北4つの計16の町(宅地)に分割されていました(図3)。しかし、都の具体的な四至については諸説あり、北限の位置についてもまだ確定しておらず、現在も調査が進められています(図6)。

3. 発掘調査の成果

今回の調査では、長岡京期の道路と掘立柱建物が発見されました(図4)。遺物は道路の側溝から土師器や須恵器などの土器類と、瓦類が出土しています。

溝20: 調査区の西端に位置する南北方向の道路側溝です。東二坊坊間小路東側溝の北延長にあたります。

溝34・40: 北京極大路より北1町(約120m)の地点で検出した、溝20と交差する東西方向の道路側溝です。溝34と溝40の間の距離は約9mあります。長岡京の小路規模の道路幅と同じ規模であることから、これらの溝は道路(小路)の南北側溝と考えられます。

溝32・36・38: 道路側溝によって囲まれた方格地割内を区画する溝です。

建物51: 調査区の北東隅に位置する掘立柱建物です。検出規模は南北5.7m・東西4.6m以上で、桁行3間・梁行2間の南北棟の建物が推定できます。柱穴の掘形は方形で、大きさは一辺約0.5mあります。

柱列52・55: 南北方向の柱穴列です。建物や塀の一部になると考えられます。

土坑47: 調査区のほぼ中央部に位置する南北方向に長い土坑です。土師器皿などの土器が出土しました。

4. まとめ

今回の調査によって、これまで長岡京の北限と考えられてきた北京極大路の少なくとも北1町までは、長岡京と同様に道路によって囲まれた一辺120m(40丈)の方格地割があり、その北には道路に面した宅地が存在していたことが明らかとなりました(図5)。

これまでの長岡京北郊の調査では数ヶ所で主に南北方向の道路側溝が確認されていましたが、検出例が少ないため、北京極大路よりも北側で方格地割の存在を確定するには至っていませんでした。今回の発見は、不明な点が多い長岡京北方の街区形成と土地利用、また長岡京の平面プランや完成度を考える上で重要な成果であると考えられます。

参考文献(五十音順)

梅本康広 2010 「長岡京」『恒久の都 平安京』古代の都3 吉川弘文館
國下多美樹 2007 「長岡京―伝統と変革の都城―」『都城―古代日本のシンボリズム』 青木書店
山中 章 1997 『日本古代都城の研究』 柏書房

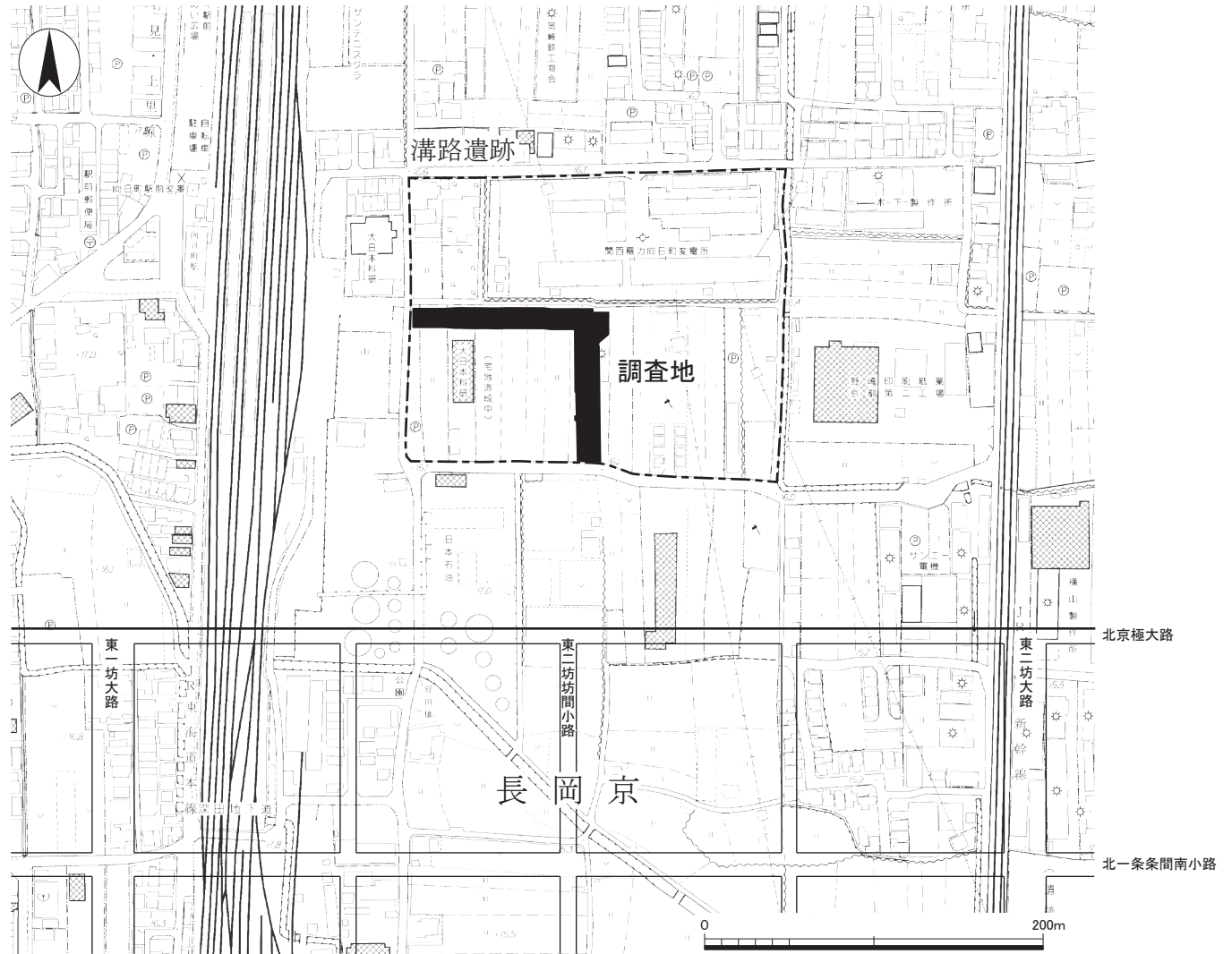


図1 調査地位置図(1:4,000)

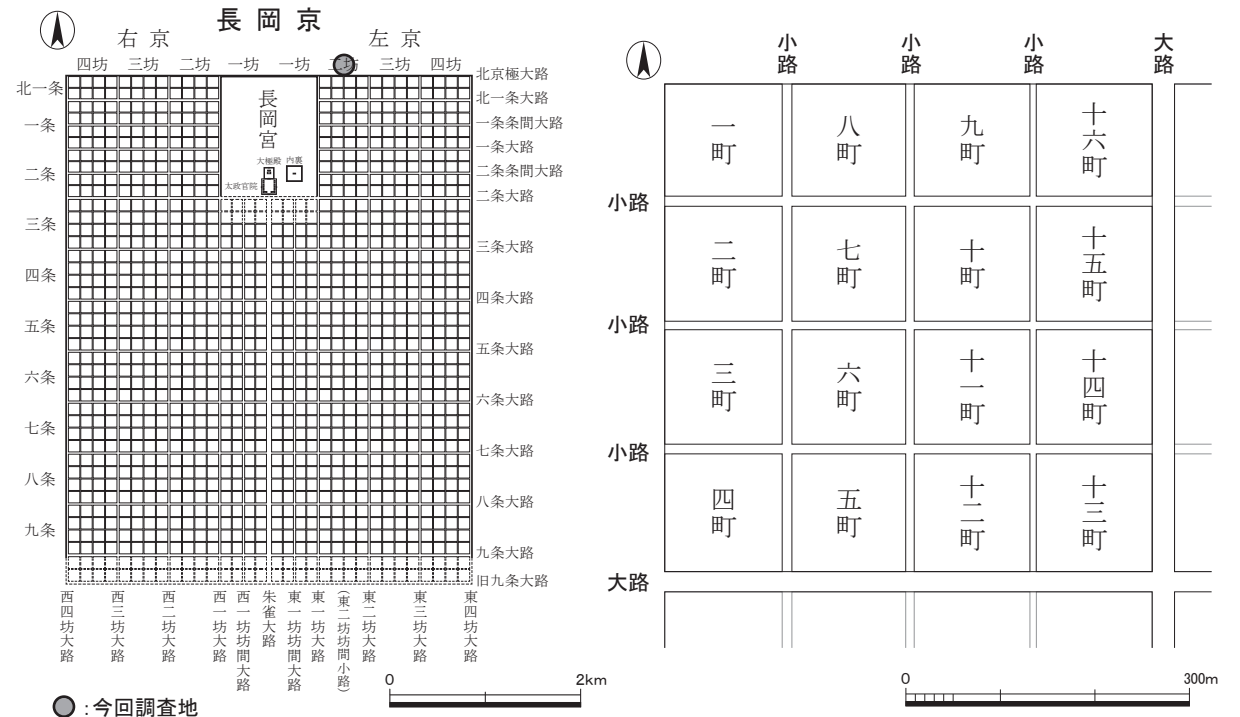


図2 長岡京条坊復元図(山中1997)

図3 長岡京左京の街区模式図

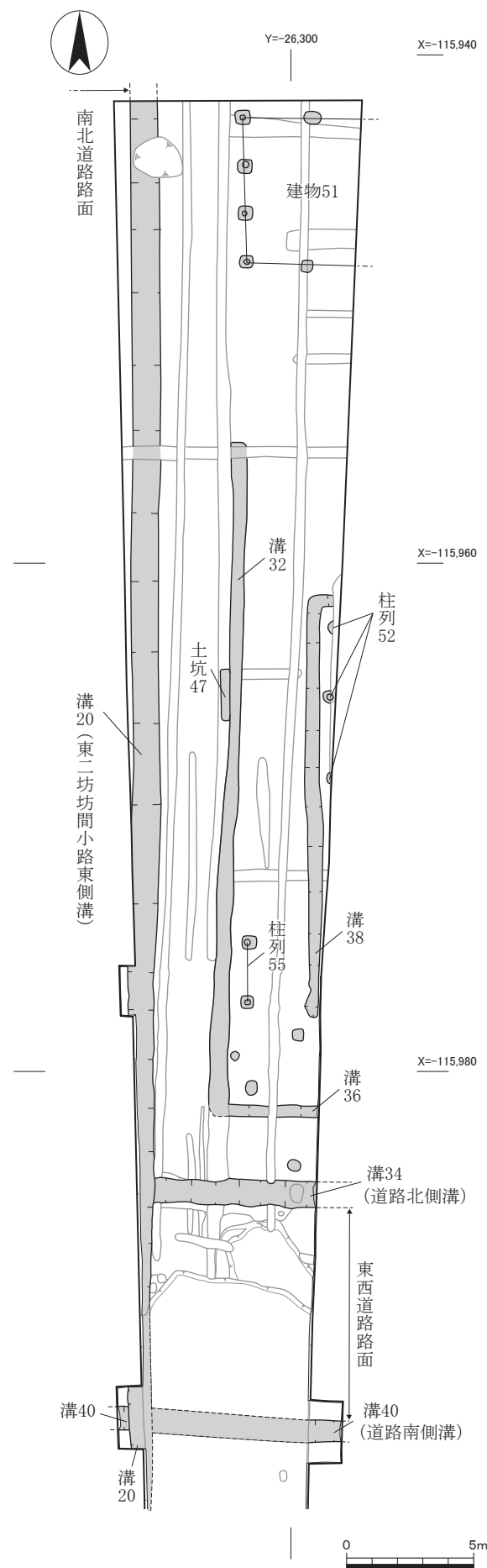


図4 調査区平面図(1:250)



写真1 調査区全景(北から)



写真2 道路側溝20・34・40(北東から)



写真3 建物51(北から)

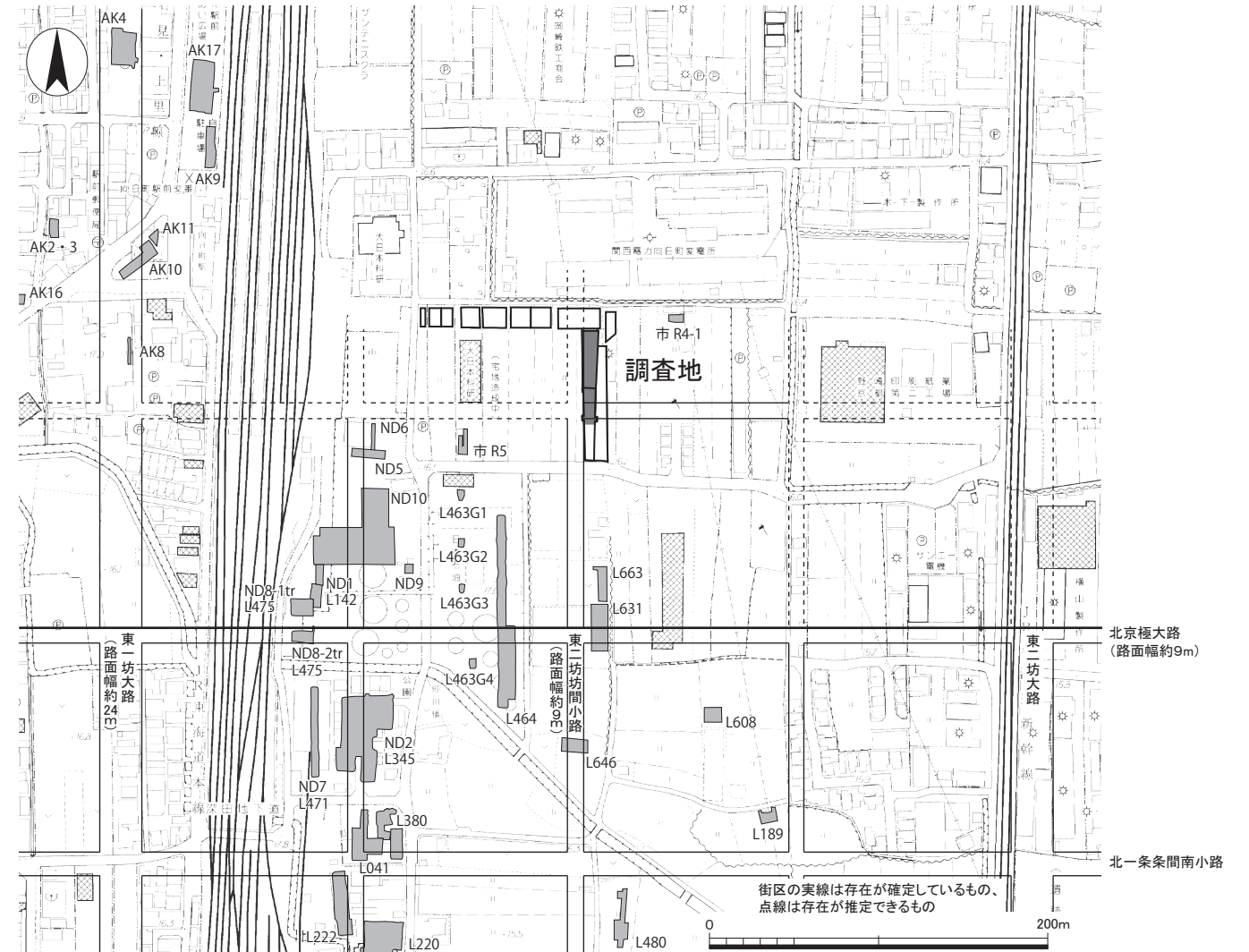


図5 方格地割復元図(1:4,000)

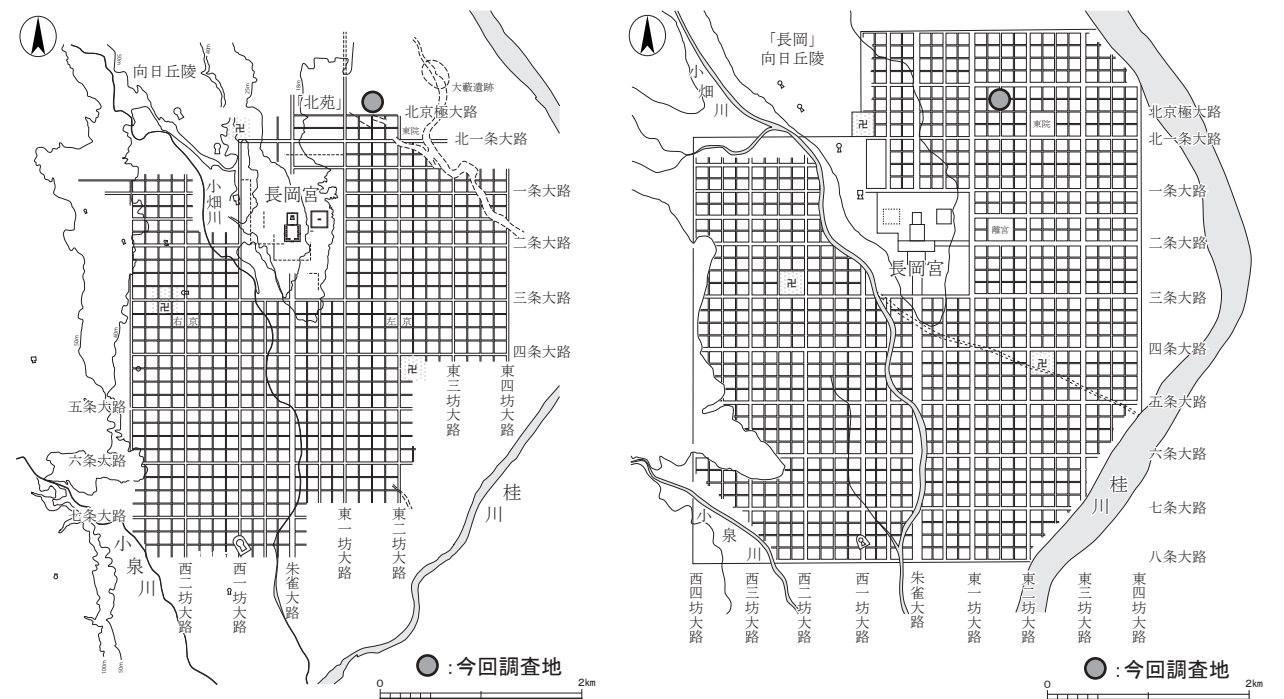


図6 長岡京北郊の検出遺構に関する評価
左図: 國下多美樹説(國下2007) 右図: 梅本康広説(梅本2010)